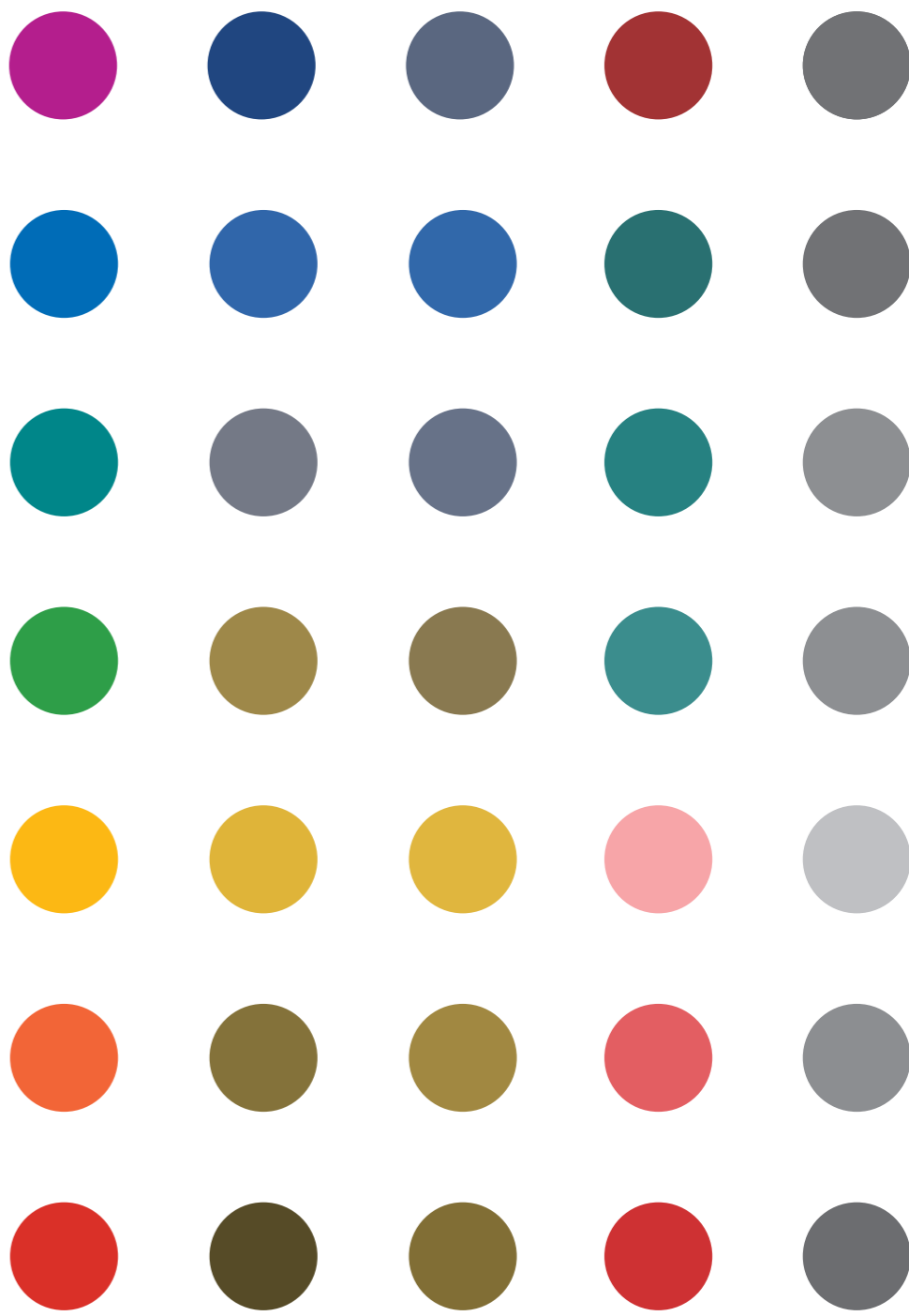
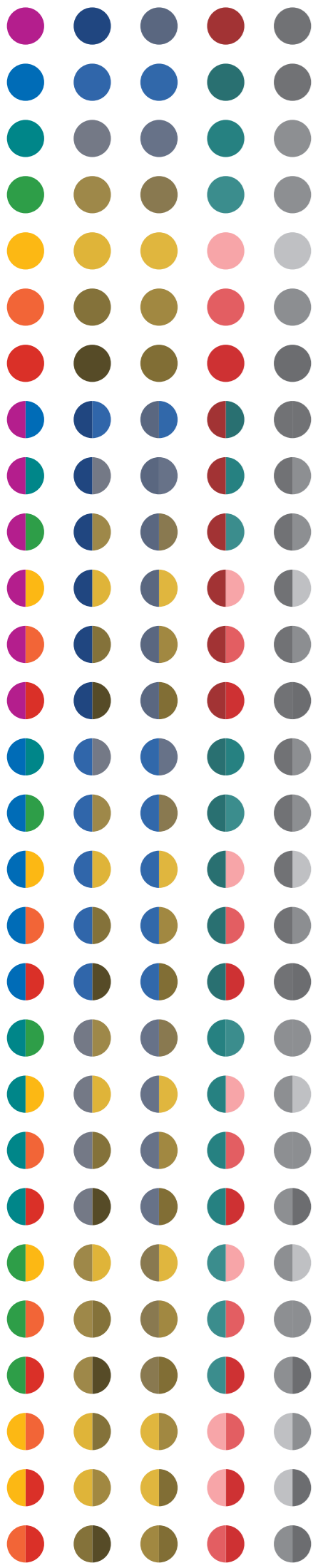


岐阜市 ユニバーサルデザイン 推進指針

「認めあい、思いあい、支えあう 誰もが暮らしやすく過ごしやすいまち・ぎふ」を目指して



岐阜市



目次

ユニバーサルデザインとは

- ユニバーサルデザインの考え方 1
- バリアフリーとユニバーサルデザイン
- ユニバーサルデザインの7つの原則 2

岐阜市UD推進指針について

- 指針策定の目的 4
- 目指すべきすがた

岐阜市のユニバーサルデザイン推進方策

- 心のユニバーサルデザイン 5
- 身体の状態ごとの特性と配慮 6
- 施策体系 9

それぞれに求められる役割 12



表紙・裏表紙のデザイン

同じ色を見ても、人によって異なる色に見える事があります。

表紙のデザインは、色覚特性シミュレーションソフトなどを使って作成した簡易色見本になっています。左から「色覚に障がいのない人の見え方」「色覚に障がいのある人の見え方※」「色みをなくした色」の順に並んでいます。（※見え方も障がいによって異なり、何種類もあります）

裏表紙の分割された円は配色見本になっており、色覚に障がいのある人にとっては色の違いを識別できない配色があることを表しています。

ユニバーサルデザインの考え方

ユニバーサルデザインは、アメリカの建築家であり、ノースカロライナ州立大学ユニバーサルデザインセンター所長であった故ロン・メイス氏（1941年～98年）により提唱され、「デザインの変更や特殊なデザインを必要とせず、できる限りすべての人に利用できるよう製品や環境をデザインすること」と定義されています。

年齢、性別、国籍、文化、身体能力や状態といった人の様々な特性や違いを超え、あらゆる人にやさしいモノづくり、生活環境・社会づくりを行っていかうとする考え方です。また、ユニバーサルデザインを簡単にして「UD」（ユーディー）と表記することもあります。

みんなのため・自分のための取組

人は、体格、性別、身体的能力、言語など、あらゆる面で一人ひとりが異なります。この「人は多様である」と知る事が、ユニバーサルデザインの取組を行う上での出発点です。

また、普段、特に不自由を感じずに過ごしていても、ある日突然、ケガや病気により、目が見えなくなる、耳が聞こえなくなる、身体が麻痺するなどの状態になることは、誰にでも起こり得ることです。そして、誰もがいずれは高齢となり、身体の機能が衰えていきます。

このように、特定の人のためのものだけではなく、自分のためでもあるということ意識して、ユニバーサルデザインの取組を行うことが大切です。

バリアフリーとユニバーサルデザイン

ユニバーサルデザインと比較される考え方としてバリアフリーがあります。どちらの考え方も「誰もが快適で自由に行動できる社会」を目標としています。ユニバーサルデザインは、対象となる人を限定することなくさまざまな人に目を向けられている分、バリアフリーよりも一歩進んだ考え方だと言えます。

バリアフリー

- ◎ バリア（障壁）を取り除く
- ◎ 障がいによっては利用できない事もあり多くの人にとって便利でないこともある

ユニバーサルデザイン

- ◎ はじめからバリア（障壁）をつくらない
- ◎ 幅広い利用者にとって便利なもの（多くの人を対象としている）

ユニバーサルデザインの7つの原則

故ロン・メイス氏は、環境、製品、コミュニケーションなどを含めた幅広い分野での方向性を明確にしています。

① 公平

誰もが公平に使えること

様々な能力の人々が公平に利用できるデザインであること

事例 エレベーター、エスカレーター、階段が併設された駅



② 自由

使用する上で自由度が高いこと

利用者の様々な好みや能力に適應できるデザインであること

事例 手すりやベビーシート、オストメイト※1対応トイレを備えた多目的トイレ



※1 オストメイト / 人工肛門や人工膀胱を持っている人

③ 単純

使用方法が簡単で直感的に分かること

利用者の経験、知識、言語能力、集中力に関係なく簡単に使用できるデザインであること

事例 使う機能が分かりやすく大きくて見やすい自動ドアのボタン



④ 明確

必要な情報がすぐ理解できること

周囲の状況や利用者の感覚能力に関係なく、必要な情報が効果的に利用者に伝わるデザインであること

事例 音声案内や点字を使った案内板



⑤ 安全

うっかりミスが危険につながらないこと

偶発的なものや意図しない行動が、危険や悪い結果につながらないデザインであること

事例 ベビーカーの車輪やハイヒール、白杖（盲人安全杖）の先端等が隙間に落ち込まないように配慮した網目の細かいグレーチング（側溝等の蓋）



⑥ 低負担

使用する上で身体への負担が少ないこと

効率よく、心地よく、あまり疲れずに使用できるデザインであること

事例 購入ボタンや取り出し口を腰の高さにした車いすの人にも使いやすい自動販売機



⑦ ゆとり

楽に接近でき、利用しやすい大きさや広さになっていること

利用者の体の大きさや姿勢、移動能力に関わらず、楽に近づいたり、手が届いたり、利用したりできる適切な大きさと広さであること

事例 ゆったりとしたスペースが確保された自動改札口



指針策定の目的

岐阜市では、年齢や性別、国籍、障がいの有無などにかかわらず、一人ひとりがそれぞれ対等な社会の構成員として自立し、相互にその人格を尊重しつつ支えあい、すべての人が安心して暮らすことができ、その持てる能力を最大限に発揮できる社会「ユニバーサル社会」を築くことが重要であると考えています。

そこでユニバーサルデザインの考え方を取り入れたまちづくりを推進するため、本市における基本的な考え方等を取りまとめた指針を策定しました。

目指すべきすがた

認めあい、思いあい、支えあう
誰もが暮らしやすく
過ごしやすいまち・ぎふ

これまで岐阜市では、高齢者や障がい者などにやさしい社会を実現するため、バリアフリーによるまちづくりを進めてきました。

一方、近年、少子・高齢化や国際化の進展など、社会環境が急速に変化しています。そのため、今後はさらに、年齢や性別、国籍、障がいの有無など様々な違いをこえて、できるだけすべての人が利用しやすいユニバーサルデザインの考え方を取り入れたまちづくりを進めることが重要であると考えています。

また、私たち一人ひとりが、普通に生活を送ることが困難な人たちや他の人を思いやる心を持つことで、ともに支えあい、生きがいを持って暮らせ、過ごしていける社会を構築していけるものと思います。

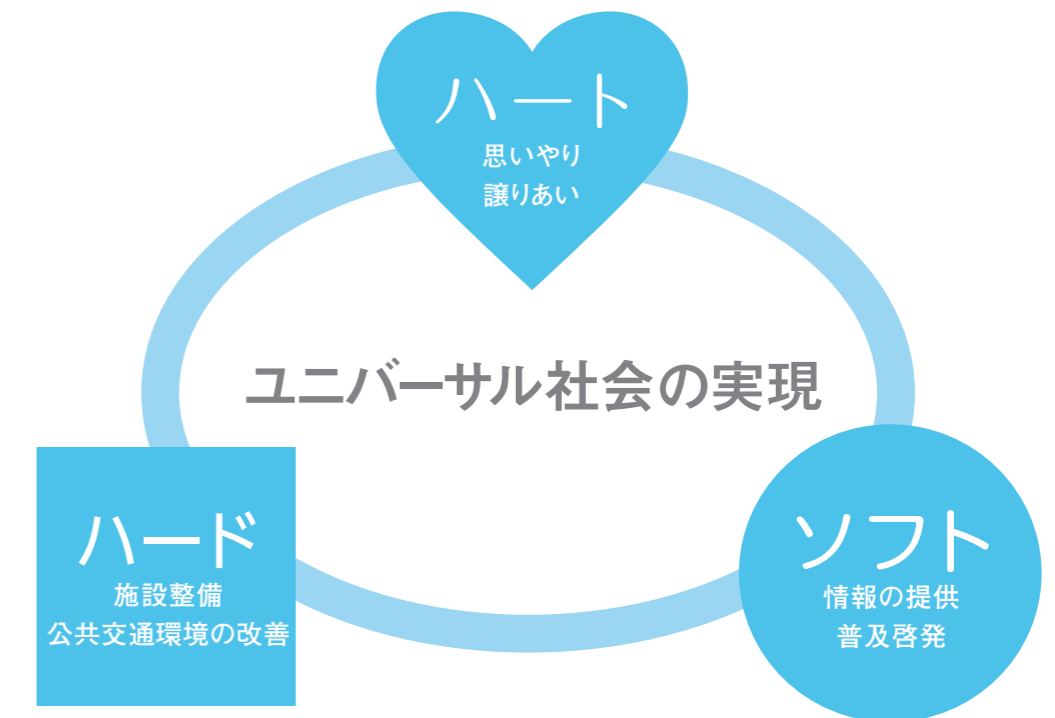
人とのふれあいを大事にして、ユニバーサルデザインの取組を行うことにより、岐阜市民はもちろん、すべての人にとって幸せな未来を築いていきたいと考えています。

心のユニバーサルデザイン

製品や建物などハード面の整備には、経費や技術的な条件などにより限界があります。たとえ、ハード面の整備が十分にできたとしても、周りの人の思いやりの心と手助けがなければ、快適な空間とはなりません。

ユニバーサルデザインを進めていく上で重要となるのは、施設の整備よりもむしろ「人の意識」です。ちょっとした気づきと相手への配慮によって、誰もが暮らしやすい社会を築いていきたいと思えます。

「ユニバーサル社会」の実現に向け、施設整備の推進はもちろん、人と人とのふれあいを大事にしながら、相手の立場に立ってお互いに思いやる心や、譲りあう心を持つといった「心のユニバーサルデザイン」が大切であると考えています。



すべての人間は、生れながらにして自由であり、かつ、
その人としての尊厳と権利について平等である。人間は、理性と良心とを授けられており、互いに同胞の精神をもって行動しなければならない。

資料：世界人権宣言第一条（外務省）



身体状況ごとの特性と配慮

すべての人が社会的弱者と呼ばれる人達が置かれている状況を知り、それぞれの人にあわせた配慮をしたり、困っている時は勇気を出してこちらから声をかけて手助けをすることなどにより、誰もが住み良い社会を築くことができると考えています。

高齢者

[主な特徴や不自由に感じていること]

- ・長時間立っていることが困難です。
- ・視力が衰え、小さな文字が見えにくくなっています。
- ・聴力が低下し、会話や説明、案内がうまく聞き取れません。

[配慮すべき事項／行動に移すために]

- ・人生の先輩として、敬意をもって接します。
- ・相手のペースに合わせて、ゆっくり、分かりやすく話をします。
- ・電車やバスなどで高齢者に席を譲ります。

視覚に障がいのある人

[主な特徴や不自由に感じていること]

- ・視覚による情報が得にくいいため、音声を中心に情報を得ています。
- ・不慣れた場所では、一人で移動することが困難です。
- ・多くの人は文書を読むことや書類に文字を記入することが困難です。

[配慮すべき事項／行動に移すために]

- ・「ここ」「そこ」「あちら」などの抽象的^{ちゆうしやうてき}な言葉を使わず、具体的に話をします。
- ・すべての人が点字を判別できるわけではないため、できる限り音声による案内をします。
- ・慣れない場所で移動する際には、介助者が誘導します。
- ・案内表示や資料等を作成する際には、色覚障がいなどの人でも区別しやすい色の配色や表示の仕方を工夫します。
- ・電車やバスなどで視覚に障がいのある人に席を譲ります。

肢体が不自由な人

[主な特徴や不自由に感じていること]

- ・車いすを使用するなど移動に制約のある場合があります。
- ・筆記困難な場合があります。
- ・体温調節が困難な場合があります。
- ・話すことが困難な場合があります。

[配慮すべき事項／行動に移すために]

- ・歩道に看板や自転車など通行の邪魔になるような物は置きません。
- ・肢体が不自由な人が困っている時は声をかけ、車いすを押すなどの手助けをします。
- ・電車やバスなどで肢体が不自由な人に、席を譲ります。

聴覚に障がいのある人

[主な特徴や不自由に感じていること]

- ・耳が聞こえないことを外見から判断することは困難です。
- ・視覚からの情報を中心に状況を把握しています。

[配慮すべき事項／行動に移すために]

- ・音による合図など注意を促しても相手の反応がない時は、聴覚に障がいがあるかもしれないことを配慮して行動します。
- ・聴覚に障がいのある人に問い合わせをする場合は、文字情報が有効です。
- ・手話、筆談、読話(唇の動きから話の内容を読み取ること)など、お互いに可能な方法を確認してコミュニケーションを図ります。

耳マーク



耳マークとは、耳の不自由な人であることをあらわすマークです。耳の不自由な人は外見からは分かりづらく、誤解を受けたり、危険な目にあうことが多くあります。耳マークのカードやシールを身につけることで、周囲から援助を受けやすくなることを目的として考案されました。

資料：全難聴耳マーク部（社団法人 全日本難聴者・中途失聴者団体連合会）

妊産婦

[主な特徴や不自由に感じていること]

- ・妊娠初期は、外見から判断することができません。
- ・ホルモンバランスが崩れ、感情や体温のコントロールが難しくなり、たばこの煙やおいが気になります。
- ・おなかが大きくなることで、足元が見えにくくなり、つまずきやすくなります。
- ・長時間立っていることが困難です。

[配慮すべき事項／行動に移すために]

- ・妊産婦が困っているときは声をかけ、荷物を持つなど手助けをします。
- ・妊産婦はたばこの煙を吸うことにより、出産時の胎児の低体重や、流産・早産の可能性が高まるなど危険性が発生するため、妊産婦の近くでたばこを吸わないようにします。
- ・電車やバスなどで妊産婦が立っている時は、席を譲ります。

マタニティマーク



マタニティマークとは、妊娠していることをあらわすマークです。妊娠初期には外見から妊娠していることが分かりづらいことから、マタニティマークを妊産婦に役立てていただくとともに、妊産婦に対する気遣いなど、やさしい環境づくりに関して広く国民の関心を喚起することを目的として考案されました。

資料：マタニティマークをとおした「妊産婦にやさしい環境づくり」の推進について（厚生労働省）

子ども、子育て中の人

【主な特徴や不自由に感じていること】

- ・子どもは身長が低いため、大人用の設備を利用できずに困ることがあります。
- ・子どもは、何でも口に入れようとします。
- ・子どもは急に飛び出したりします。
- ・子どもは予期せぬ行動をするため、子育て中の人からは子どもから目が離せません。
- ・ベビーカーを使用している場合、階段や大きな段差などの昇り降りが困難です。
- ・乳児を連れた人が施設を利用する際、授乳する場所に困ることがあります。

【配慮すべき事項／行動に移すために】

- ・施設に子ども用の便器、子ども用のいす、授乳室等を設置します。
- ・子どもが危険な行為をしようとする場合は、やめるように注意します。
- ・通学路などでは、子どもの急な飛び出しに注意して運転する必要があります。

外国人

【主な特徴や不自由に感じていること】

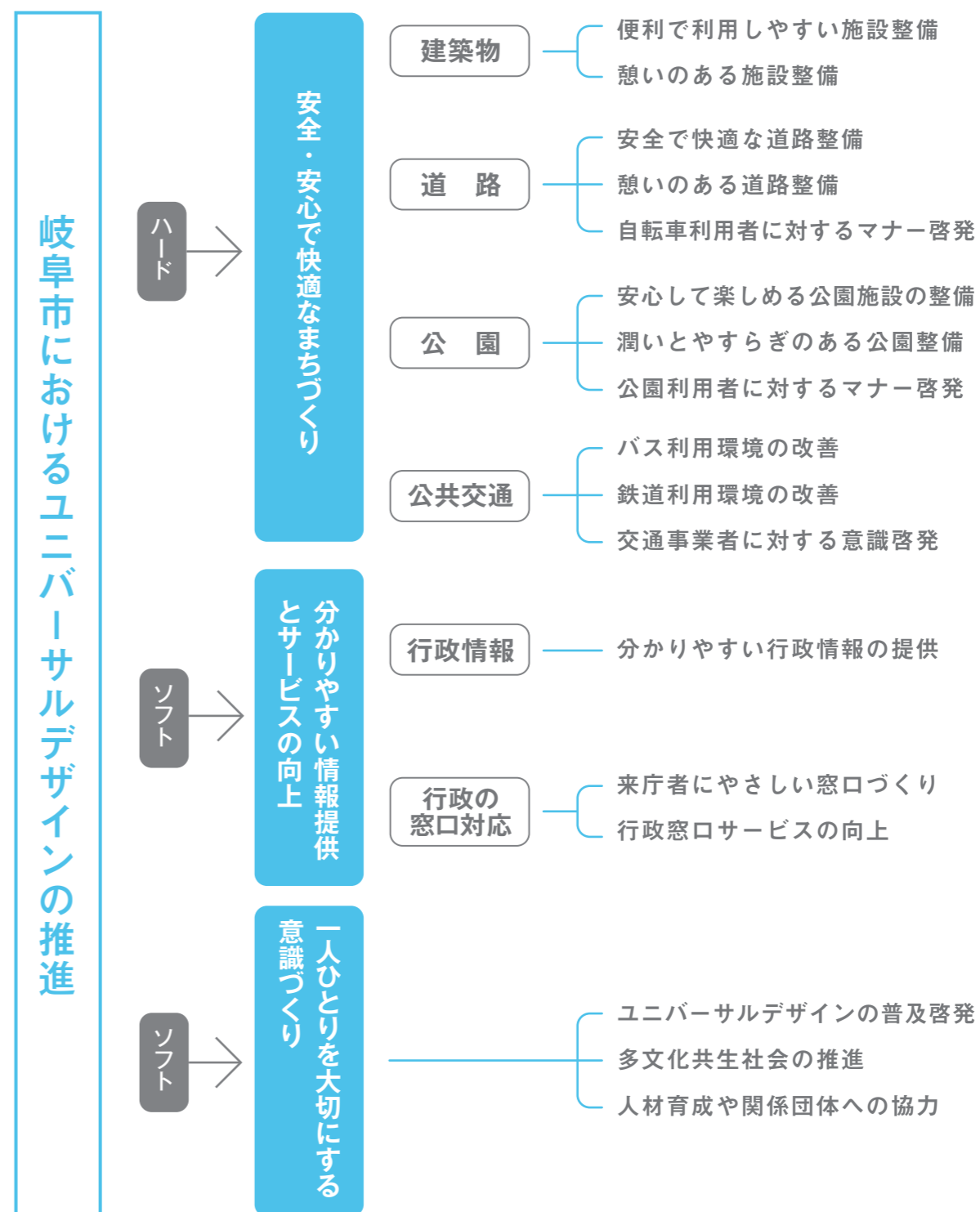
- ・日本語での会話がうまくできない人がいます。
- ・地名や名前などで難しい漢字を使用したり、特殊な読み方の場合は分からないことがあります。
- ・宗教上の理由などにより、食べられない物があります。

【配慮すべき事項／行動に移すために】

- ・日本語習得の機会や、交流の場を提供します。
(公民館等で、日本語教室があると便利です。)
- ・外国人の旅行者等が道に迷っている時は、こちらから声をかけて案内します。
- ・観光や生活などに関する外国語表記のパンフレットを作成します。
- ・案内などに外国語表記も行います。
(英語以外にも複数言語の表記が有効です。
また、施設名などの日本語の読み方をローマ字で正確に表記すると、道を尋ねる時に便利です。)
- ・外国人が相談できる人や場所を提供します。

施策体系

この指針で目指す社会を実現するため、ハード面においては「安全・安心で快適なまちづくり」、ソフト面においては「分かりやすい情報提供とサービスの向上」、「一人ひとりを大切にする意識づくり」を推進していきます。



安全・安心で快適なまちづくり

建築物

施設の整備にあたっては、できる限り計画段階から利用者等の意見を聴き、ユニバーサルデザインの考え方を取り入れた誰もが安全かつ快適に利用できる整備を進めます。

さらに、施設管理や施設整備を行う人に対して意識啓発を行い、施設を美しく清潔に保つとともに、建築後も利用者の意見を踏まえた改善に努め、さらに利用しやすい施設を目指します。

道路

高齢者、障がい者等をはじめすべての利用者が安全に安心して移動できる快適な道路空間を目指し、バリアフリー新法に基づき、既存の歩道の広さ・段差・傾斜を改善するなどの取組を推進していきます。

また、歩行者のみならず自転車利用者にとっても安全で快適な道路整備を推進します。

公園

高齢者、障がい者、子ども、妊産婦、外国人等すべての利用者にとって、レクリエーション機能を持ち、災害時における避難地としての役割を果たし、自然景観を楽しめるような潤いとやすらぎのある公園として整備します。

また、既存の公園の中には、地域の実情に合わなくなってきたものや、施設の老朽化などにより利用しにくいものがあります。このため、地域の要望などを取入れながら、ユニバーサルデザインに配慮した施設の改善や緑化の増進などに取組みます。



ユニバーサルデザインに配慮した遊具が設置されています
(平成20年度全建賞※2 GIFUバリアフリー賞※3受賞)

長良公園

公共交通

歩行者や自転車を重視し、公共交通機関を便利で使いやすいものへと改善することにより、誰もが自由に移動できる交通環境の実現を目指します。

そのため、円滑な乗り継ぎ環境の整備や、バスレーンなど走行環境の整備、低床バス導入率100%を目指すなど、公共交通を中心とした交通体系づくりを進めていきます。

※2 全建賞 建築技術の活用ならびに公共事業の進め方等により、特出した成果の得られた事業を選考し、表彰するもの
※3 GIFUバリアフリー賞 岐阜県において、高齢者や障がい者に配慮した建築物や福祉のまちづくりに寄与する団体等を表彰するもの

分かりやすい情報提供とサービスの向上

行政情報

必要な情報を、年齢、身体の状態や言語の違いなどに関係なく入手できるように、複数の手段により、分かりやすく提供するように努めます。

12ポイント以上のできるだけ大きな文字の使用や、専門用語を使う際には注釈をつけること、表や写真の使用などにより、見やすく分かりやすい情報提供に努めます。

市民コンシェルジュ (庁舎総合案内人)



目的の課までの誘導などを行います

行政の窓口対応

高齢者や障がい者、外国人等あらゆる人に対して相手の状況に合わせた親切で分かりやすい説明や対応に心がけます。

また、様々な人の意見を取り入れながら、手続きの簡素化に努めるなど、利用者の立場に立った事務の改善に取り組めます。

一人ひとりを大切にする意識づくり

市職員はもちろん、すべての市民がユニバーサルデザインの考え方を理解し、モラルを高め、お互いを思いやる気持ちや支えあう心を持てるように、ユニバーサルデザインの考え方の普及啓発や、ユニバーサルデザイン推進を担う人材育成を行います。

交流会



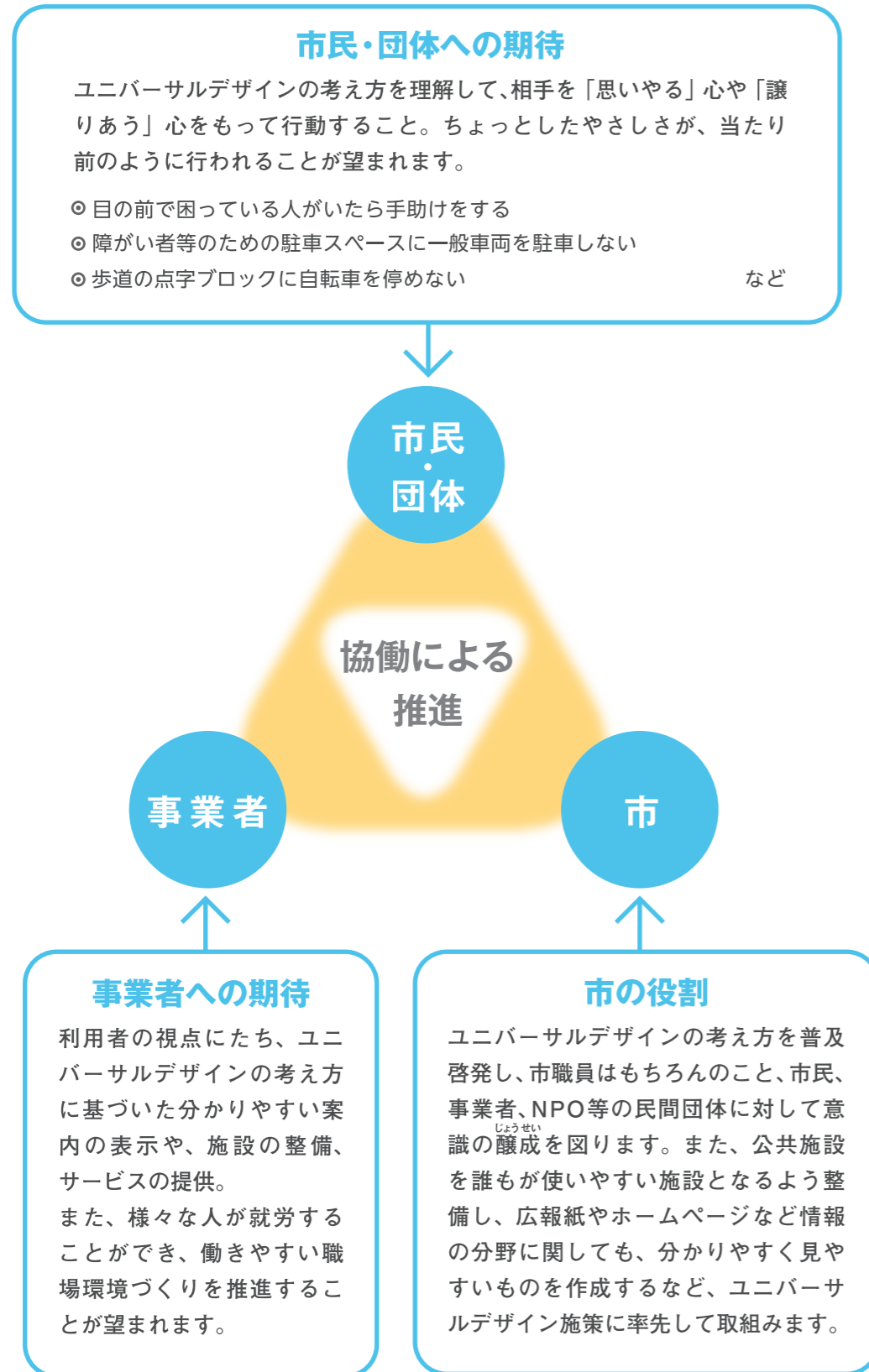
外国人と日本人との異文化交流を行います

このため、ユニバーサルデザインの考え方や事例を広報紙やホームページ等で紹介するとともに、講演会や研修会を開催するなど一人ひとりを大切にする意識づくりを推進するための取組を進めます。



それぞれに求められる役割

ユニバーサルデザインのまちづくりを推進するためには、行政だけではなく、市民、事業者、NPO等の民間団体それぞれが主体的に取組み、お互いが連携、協働してユニバーサルデザインの取組を進めていく必要があります。



岐阜市ユニバーサルデザイン推進指針

[概要版]

平成 22 年 10 月

発行：岐阜市企画部企画調整課

住所：岐阜市今沢町18番地（〒500-8701）

電話：058-265-4141

デザイン：寺田勝三 [名古屋工業大学大学院社会工学専攻]